

日本福音主義神学会

J·E·T·S·NEWS Vol.13

発行所/〒270-13 千葉県印旛郡印西町船尾301-5-1 東京基督神学校内

第五回神学研究會云議に

期待する

服部 嘉明

生活のあらゆる面で、私たちは自分の世界だけに閉じこもっていることが極めて困難な時代になりつつあることを日々強く感じます。コミュニケーションの著るしい発展とともに、世界は狭くなりまし

発表の場を提供し、定着した福音主義神学の研究が、諸教会の若手教職の間で活発に行われるように何らかの方策方針を打ち出すべきでしょう。そのためには、有能な若手教職者を励まし、教会、伝道とともに学び、研究する機会を、各教団や、団体が積極的に彼らに紹介し、提供し、支援する必要があります。

日本福音主義神学会も、その創立出発の時点をふり返ると、二十周年を迎えるのですから、やはり世代の交替とともに、新しい方向を打ち出して、これからの時代の教会に仕える学会というイメージをつくり出さねばなりません。

二、当然のことではあったが、日本福音主義神学会は、首都圏を先づ中心に、創立時よりその活動をなし、後に京阪神を中心とする西部に、そして数年前には名古屋を中心とする中部にと、部会活動が広がって行くようになりました。

「教会に仕える学会」という姿勢は、この神学会の創立当時から維持してきた特徴でもあり、これからも継承されるべきです。そして、今までより以上に、多くの教職の先生方や、諸教会、諸団体の支援と協力を得られるように努力すべきです。良い伝統を生かしつつ、この学会をより魅力的なものとするために、今度の第五回神学研究會議のみならず、日本福音主義神学会に、特に次の三点を大きく期待します。

一、若手の教職に研究と、研究

「教会に仕える学会」と自称して来たのですから、今後に期待されることは、この学会の活動が（神学研究會議を含めて、更に地方で教会、伝道にたずさわっておられる教職者に参加して頂けるように、地方への活動の広がり企画され、実行されることです。そのためには、神学ミニ研究会議のようなものを地方で、各部会の支援と協力によって開催することも有効

ではないでしょうか。

三、最近の情報によれば、欧米地域のみでなく、アジア諸国、及び、南米諸国においても福音主義神学会、又はそれに相当するような神学研究機関が設立されているようです。現在は、学問の世界においても国際化時代です。世界宣教というグローバルな使命を託されている私たちは、尚更、神学研究という面でも、「教会に仕える神学会」としてそれら諸国にある福音主義神学会や、諸機関との交流を、直ぐ今回の第五回神学研究會議には無理であるとしても、(何らかの形で国際的要素が企画、実行されれば大変嬉しいですが)今後積極的に企画、実行されることに期待されます。謙虚に、諸外国特にアジア諸国のそれらの機関と交流し、相互に学び、研究することは、世界宣教という点からも大変意義のあることです。

ひとつの木にたつらなる枝として、多くの実を結ぶために、そして、父なる神に喜んで頂けるために、今度の第五回神学研究會議を前にして、準備委員の諸先生方の労に感謝しつつ、主御自身が私たちの中に二十年前に創立の想いを起さしめ今日まで導いて下さったことを思い御名を崇めつつ、私の祈りでもある期待を述べさせて頂きました。

(東部理事)

各地区部会報告

東部部会報告

(一九八八年七月～一九八九年八月)

一、理事会

一九八九年一月三十日(月)於OSC.C。出席者十二名。欠席者七名。

●ティンデル・ハウスの理事長アラン・ミラード氏(旧約考古学の集会を三月十七日(金)夕にOSC.Cで持つことにした。三十名の出席を目標とする。

●四月に東京基督神学校が千葉に移転後も、神学会東部事務所を同校に置かせていただくことを同校にお願いすることにした。

●春の総会・研究会の準備をした。賛助会員だった柏崎聖書学院の一九八七年度末での退会を認め

た。●正会員笠川徹三氏の東部からの退会を認め、西部への入会を勧め

めることにした。

一九八九年六月十六日(金)於OSC.C。出席者九名。欠席者十名。

●第五回神学研究会について。祈り会の東部からのスピーカーの奉仕を伊藤淑美氏にお願いすることにした。名誉会員の本田弘慈氏と瀬尾要造氏を招待することにした。

●理事改選の仕方について突っ込んだ話合いの時を持った。数多くの意見が出され、意見は出尽くした感があるので、出された意見を役員会でまとめることにした。

●正会員として、吉川健三、柴田敏彦、倉沢正則、杉本智俊、杉本玲子、下川友也、西村敬憲の七氏の入会を認めた。

二、第十八回秋期研究会の報告
一九八八年十一月二十一日(月)

午後。於OSC.C。出席者約四十五名。

●礼拝 説教 石川満氏

●研究会

テーマは「習俗論を巡って」
発題 齊藤篤美氏、後藤牧人氏
中野努氏

司会 荒木寛二氏

●シンポジウム
テーマは「死者儀礼について」
パネラーは、伊藤顕栄氏、尾城秀雄氏、山口勝政氏。

コーディネーターは、片岡伸光氏。

三、第二十回総会・春期研究会の報告
一九八九年五月八日(月)午後。於アッセンブリー・中央福音教会。出席者約三十四名。

●礼拝 説教 中沢啓介氏

●総会

●研究会
司会 佐布正義氏

研究発表

「天皇制——宣教学的考察」
倉沢正則氏

報告発題

「天皇制——山形地区教会における取り組み」
坂本献一氏

●講演

司会 横山武氏
講演 「天皇制論——現状と展望」
西川重則氏

四、特別研究会の報告
一九八九年三月十七日(金)夕。於OSC.C。夕食会出席十八名。研究会出席二十六名。

●講演 「考古学と文献批評学——アブラハムの歴史性について」
アラン・ミラード氏
(書記 大滝信也)

中部部会報告

(一九八八年六月～一九八九年五月)

一、理事会

①八八年七月十一日(月)

十一時 東海聖書神学塾

出席 金田、河野、黒川、鈴木、梶、安村

報告

●全国理事会報告

●編集会議報告

審議

●会費の改訂について

●会費滞納者の取扱いについて

●秋季研究発表会に関する件

●会員異動 岩崎謙師(西部へ)

●研究会議委員の選出(鈴木師)

②八八年十一月七日(月)

十一時半 東海聖書神学塾

出席 金田、河野、黒川、鈴木、梶、安村

報告

●学会誌に関する件

審議

●八九年度総会・講演会の件

日時 五月八日(月)

十一時総会 一時半講演

講師 宇田 進師

●会費滞納会員に関する件

●研究発表会司会者の確認

③一九八九年三月二十日(月)

十一時半 東海聖書神学塾

出席 金田、河野、黒川、鈴木、
梶、安村
報告 学会誌、研究会議
審議

- 八九年度総会・講演会の準備
- 秋季研究発表会について
十一月六日(月)
- 後藤師、桜井師に交渉
- 理事改選に関する件
- 候補者の推薦、選挙実施要項の
確認
- その他

十時 東海聖書神学塾
出席 金田、河野、黒川、鈴木、
梶、安村
報告 新入会員の承認、川口一彦師
● 会員異動、退会、小石 豊師
● 総会議案・報告の承認
● 理事選挙結果について
二、第八回中部部会総会
八九年五月八日(月)
十一時 金山キリスト教会
出席 十三名
禮拜

司会 小川師、説教 隅上師
総会
報告 八八年度行事・会計報告
● 会員異動等(承認)
審議
● 八九年度事業計画を承認
● 会費改訂を承認
● 八九年度予算案を承認
● 理事改選の件
安村氏確定。入川、金田、小野
師のうちから受諾可否の確認
をしたうえ、二名を選ぶ(理
事会に取扱を一任)

● 新入会員の承認
三、神学講演会(十五名出席)
八九年五月八日(月)午後一時半
総会会場 講師 宇田進師
「コンテクスチュアリゼーション
の課題 文化と回心」
四、第七回研究発表会(十五名)
八八年十一月七日(月)金山キリ
スト教会
小野静雄師「学生キリスト教運動
にみる教会と社会」、入川達夫師
「福音と文化 日本人に対する宣
教論の一考察」(書記 安村仁志)

西部部会報告

(一九八八年七月―一九八九年六月)
八九年度、西部部会では京都で
の研究会議の準備委員長などかね
てご尽力くださった高橋久之前理
事長のあとを受けて、有賀喜一師
が西部部会の理事長の任を受けて
くださった。また長期にわたって
会計の責任をとってくださった工
藤弘雄師にかわって鷹取裕成師が
会計の任を負ってくださった。両
新任の先生、それぞれ全国理事・
全国会計としてのつとめを兼務し
てくださる中で、部会・理事会の
活動が進められた。

活動は、時間的・財政的な制約
のもとで進められたが、研究活動
学会誌出版、会員組織の増強、九
州・四国支部の支援と、各分野着
実な歩みがなされた。
五月部会総会のプログラムの一
環として、改革派神学校の牧田吉
和校長による「説教における聖霊
の働き」という講演で、主題に対
して綿密な教義学的考察がなされ
た。秋の研究会議については、従
来神戸中心に活動がなされていた
関係で大阪地区などからの参加が
少なかったため、そちらの方面に
展開を求め、大阪聖パウロ教会に
会場を移して、研究会を開いた。
「福音と文化をめぐって」という
主題のもと、九州支部から山中猛
士氏が「英国宗教改革史における
福音と文化」を、真鍋孝氏が「聖
書翻訳における含意文化情報」を
それぞれ発題をされた。
学会誌の編集活動の主たる責任
が西部部会にゆだねられているた

め、部会理事会においても逐一、
編集の進展の様子、学会誌運営の
状況などが報告された。内田和彦
黒川雄三、鍋谷堯爾の編集委員の
諸師および編集実務を担当された
石黒則年師のご尽力により、「大
部」の学会誌「福音と文化」一九
号を予定通り一月上旬に発行す
ることができた。
西部部会、年間の活動で終始検
討されたのは部会運営の財政基盤
の確保を今後どのようにしていく
かということであった。定められ
た予算の枠内で、不必要な出費に
気をつけ、最大限の活動を期すべ
く努力したのは当然であるが、今
後活動を発展させるためには、新
たな財源の「開発」が必要となる
点で認識が一致している。学会員
の教会などが賛助会員になっても

らえるような可能性がないか今後
検討していく予定である。また活
動への関心の喚起もかねて会費の
納入のアップを重ねた。その
結果、納入率がかなり好転した。
九州・四国支部の支援は、西部
部会の重要活動項目である。ただ
厳しい予算の枠内では、往來の旅
費の捻出も困難であるが、今年
有賀理事長九州出張の機会を利用
して九州支部支援を行った。九州
では山中猛士・東條隆進両理事が、
四国では鈴木英昭理事が、中心に
なって活動を進めている。
全体的にふり返って、順当な歩
みであったと評価される。ただ、
学会員とくに理事の諸師の職務が
それぞれ変化・多忙化するとい
う客観的な状況があり、願いつつも
充分活動に時間を費やせなかった

うらみがあつた。西部部会でも、状況の好転が望まれる。
 最後にながきにわたって部会理事長をつとめてくださった安田吉三郎師は理事を引退された。会員

全・国・理・事・会・報・告

一九八九年度は、前年度の京都での研究会議「福音と文化」を受け、各部会の活動はその成果をフォローするという形で進められた。たとえば、東部で、天皇制を中心にした「福音と文化」の学びがなされ、中部では日本人に対する宣教という視点から、あるいは教会の社会への関わりと言う視点から「福音と文化」について研究会がもたれ、さらに西部でも「福音と文化をめぐって」という主題で、英国宗教改革史におけるケース、翻訳における文化背景などの観点から問題の検討がなされた。地道ではあるが、着実な活動が行われた一年であった。

として支えていて下さる。また服部嘉明師を東部にお送りした。両先生にこの場をかりて感謝したい。
 (書記 橋本昭夫)

この主題の基本文献として活用されていく見通しである。

神学会の財政状況は、好調とは言えず、全国会計からの部活動費は東部・西部それぞれ一〇万、中部五万とかなり低い水準に押さえられている。懸念されるのは、財政的な制限により、活動が萎縮してしまはいないかということであった。前年度決算が二二三万円であるのに対し、今年度の予算は二二三万円弱となっている。今後どのように活動の財源を確保していくかが課題となっている。なお今年度より、学会費が三五〇〇円(準会員は二五〇〇円)に改められた。会員の学会費の着実な納入により活動の基盤が確かなものとされる。

会員の増減については各部会とも横ばい状況である。西部では九州・四国支部の活動が続けられている。また東部でも近い将来、東北に支部が作られる動きがある。会員の主たる奉仕の多忙化などで

全体として活動のテンポが若干ゆるくなっている傾向が認められる。
 二〇周年の節目、神学会の新しい活動の第一歩として記念研究会議が御殿場・東山荘で今秋十一月二七日～二十九日にかけて開催される。前回の京都での研究会議を受け、より具体的に「福音と文化」

第五回神学研究会議のご案内

前回の京都会議では、「福音と文化」を総論的に、見渡しました。今回はそれを継承し、福音と日本文化の具体的な接点や衝突点を探り、日頃直面する課題に光をあてようと思ひます。皆様の積極的な御参加をお待ちしております。

日時／一九八九年十一月二十七日(月) 午後四時～二十九日(水) 午後一時。

会場／YMCA東山荘(静岡県御殿場市)。

定員／百二十名。

費用／二万円(登録費、二泊六食)。

申し込み先／☎二二八 相模原市相模大野六九三三 大野キリスト教会内 日本福音主義神学会 郵便振替 東京九一一〇七六八。

問い合わせ先／山口昇 ☎〇三二七〇一七四三三 片岡伸光 ☎〇四二六六二二二二九九。

発題／「福音宣教における天皇制の問題」(橋本龍三師、川崎広師)。

の問題が取り上げられる予定である。
 新しい時代の福音主義神学会の活動の方向を探っていく時が到来している。会がさらに祝され盛んになるよう祈らされる。
 (書記 橋本昭夫)

「現代日本キリスト教史における抵抗の系譜の検証」(井戸垣彰師、小野静雄師)。「祖先崇拜とキリスト教」(末松隆太郎師)。「パウロのアレオパゴスの説教」(宣教学的検討) (山口勝政師、鷹取裕成師)。



日本福音主義神学会ニュース

1989年7月31日発行

発行/日本福音主義神学会

編集/大滝信也

レイアウト・印刷/

デザイン・マルコ

〒188東京都田無市南町1-5-9-501

☎0424(63)0272